

【22_167技術系メルマガ】なぜ、『利確』が難しいのか？

〇〇さん

こんにちは！クロガキ(クロ)です。

昨日はロンドン時間とNY時間に1回ずつトレードして1勝1分でした。

NY時間に仕掛けたトレードの根拠を、一つ提示しておこうと思います。

▼GBPUSD(S) 結果: +26.5pips ▼

<https://twitter.com/fxrealtradelive/status/1537056263246577664?s=20&t=FOjHa0ST5aMxoN-iY04GSQ>

日足、H4足は先日の陰線で安値を割っており、続伸狙いの短期戻り売りを図る場面。

H1/40-50SMAが邪魔な位置だったので、その点がやや不確定要素。

M15足は20SMA G1確定後、どこまでプルバックが入るかチェック。

⇒利確目標は40-50SMAの手前(1.2055付近)まで。

M5足で『3波理論』ベースの1波確認から、2波終了を確認。

上げ止まりの形は、M1足三尊で認識し、ネックラインブレイクからエントリー

～～

さて、今回もお悩みに答えるシリーズということで、『利確』

これが何故みんな「難しい」というのかについて考察と対策をまとめていこうと思います。

□
└─ ■ "決められない" から、迷いし難くなる

もう、このサブタイトルで答えの8割は言い切ってしまったようなものなのですが(笑)

もう少し深掘りして説明しますね。

先に、これを考えるヒントとなるツイートをしたので

まだ見ていない人のために出しておきます。

▼ツイート▼

<https://twitter.com/fxrealtradelive/status/1537020855267491841?s=20&t=FOjHa0ST5aMxoN-iY04GSQ>

いつも言っている事ですが、テクニカル分析を用いてトレードすることにおいて

最も大事なことは、正確無比に値動きを当てる事ではありません。(そんなの分かるわけがないから)

これは繰り返しメルマガでもお伝えしている事ですが、トータルで勝つトレードをやりたかったら

結局『一貫した判断』に基づいて、それが相場と噛み合った時は、必要分のリワードをキッチリ頂き

目線が違った(根拠が崩れた)瞬間に、最小限のコストで損切りをする事。

やるべきことは、ただそれだけです。

先日の鉄板セミナーでは、普段僕がロットを伏せてトレードしているところ、実際どの程度のロットを張ってトレードしているか、履歴で全てお見せしました。

損切り(リスク)と利益(リワード)のバランスは常に1:2以上をキープしている事は

その時に確認して貰えたかと思います。

勝率は6割弱なので、十分に利益が残って終わります。

この、損切りと利確の判断基準は、僕の中に手順も含めた明確な『決めごと』があります。

1. まず、『損切り』の位置を決める
2. セットアップに基づいて『エントリー予定位置』を決める

3. 上位足の環境を考慮したうえで『利確』予定位置を決める
⇒相対リワードが『2以上』あればトレード。「2に満たない」場合は見送り

見て貰った通り、僕は損切りも利確も基準に沿って『先に決めて』しまうので

エントリー後に「どこで利確しようかな・・・」などといちいち考えません。

それをやってしまうと、必ず「迷い」が生じるし、それで含み益を消してしまうのが 最悪手 だと考えるからです。

迷うこと自体大きなストレスですし、要は何回かトレードした後に『最期に利益が残る』ことで僕らは勝つわけですから

その1回のトレードで目一杯利幅を取ろうとする必要はないのです。

データに基づいて、『自分の手法の勝率がどの程度か』と『どれだけのリスクリワード比を保てば』最終的に利益が残るかを数字で把握しておくことで

必要分のリワードを得た時点で、躊躇なく利確してしまえば良い。

その先値が伸びるかもしれないが、それは「相場の不確実性」に左右される問題なので

結果どうなるかは分からないわけですからね。

ならば、確率的に期待値の高いアクションを取り続けたほうが、最終的に利益を残して終われる確率が高くなります。

このような根拠を集める作業が過去検証(母数集め)であり、フォワードテストなのです。

決めごとを作り、ルーティン化できる要素を増やしてしまえば

短期デイトレだろうがスイングだろうが、専業だろうが兼業だろうが圧倒的に楽なトレードが出来るようになります。

トレードを難しくしているのは、ほぼ自分の考え方によるものだということに気が付ければ

大きな成長に繋がると思いますので、各々でよく考えてみると良いですね。